

一般社団法人 日本行動分析学会

第43回年次大会プログラム



43rd ANNUAL CONVENTION
JAPANESE ABA
2025 ONLINE &
AOSSA(FUKUI)

2025年 8月19日 (火) ~21日 (木) オンライン

2025年 8月23日 (土) ~24日 (日) AOSSA (福井)

【会場アクセス情報- ①】

(オンライン会場)

1. 若手研究者口頭発表

時刻: 2025年8月19日(火) 19:00 大阪、札幌、東京

URL : <https://us06web.zoom.us/j/86827397582?pwd=jaCjyRA5YnxaWgSo6abxOpv5nv9tb5.1>

ミーティング ID: 868 2739 7582

パスコード: 947089

2. 自主企画シンポジウム

1) チャレンジング行動への新たな視点：スケジュール誘導性行動の理論と実践

(企画：今本 繁)

時刻: 2025年8月20日(水) 19:00 大阪、札幌、東京

URL : <https://us06web.zoom.us/j/89081363434?pwd=Gi2IN24Ogon6Yk8gmaM23kum3sjOFR.1>

ミーティング ID: 890 8136 3434

パスコード: 083893

2) 応用行動分析学の研究成果を国際学術誌に掲載する方法 (企画：山本淳一)

時刻: 2025年8月20日(水) 19:00 大阪、札幌、東京

URL : <https://zoom.us/j/91825105169?pwd=iy1rbWVBbztoKbXOquU9tAlA51Id86.1>

ミーティング ID: 918 2510 5169

パスコード: 866109

3) ABA 実践倫理の未来像：協働・制度・人材育成で拓く 2030 年代 (企画：熊 仁美)

時刻: 2025年8月21日(木) 19:00 大阪、札幌、東京

URL : <https://us06web.zoom.us/j/85711285517?pwd=OQ69r8Yrnn085uG1qWpLwRgGVOhB6J.1>

ミーティング ID: 857 1128 5517

パスコード: 892266

4) 行動分析学を社会に広めるために (3)：誰が・何のために・誰のどんな行動を?から考える (企画：三田地真実・松山康成)

時刻: 2025年8月21日(木) 19:00 大阪、札幌、東京

URL : <https://zoom.us/j/97476995215?pwd=Wds6BfXdmJKaln6yz5m9xaKedMy2AB.1>

ミーティング ID: 974 7699 5215

パスコード: 291899

【会場アクセス情報- ②】

(リアル対面会場：2025年8月23日(土)～24日(日))

《年次大会会場》

AOSSA(アオッサ) 6階(福井市地域交流プラザ), 8階(福井県県民ホール)

JR 福井駅より徒歩1分：<http://www.aossa.jp/>

《懇親会会場》

福井県織協ビル 10階ホール

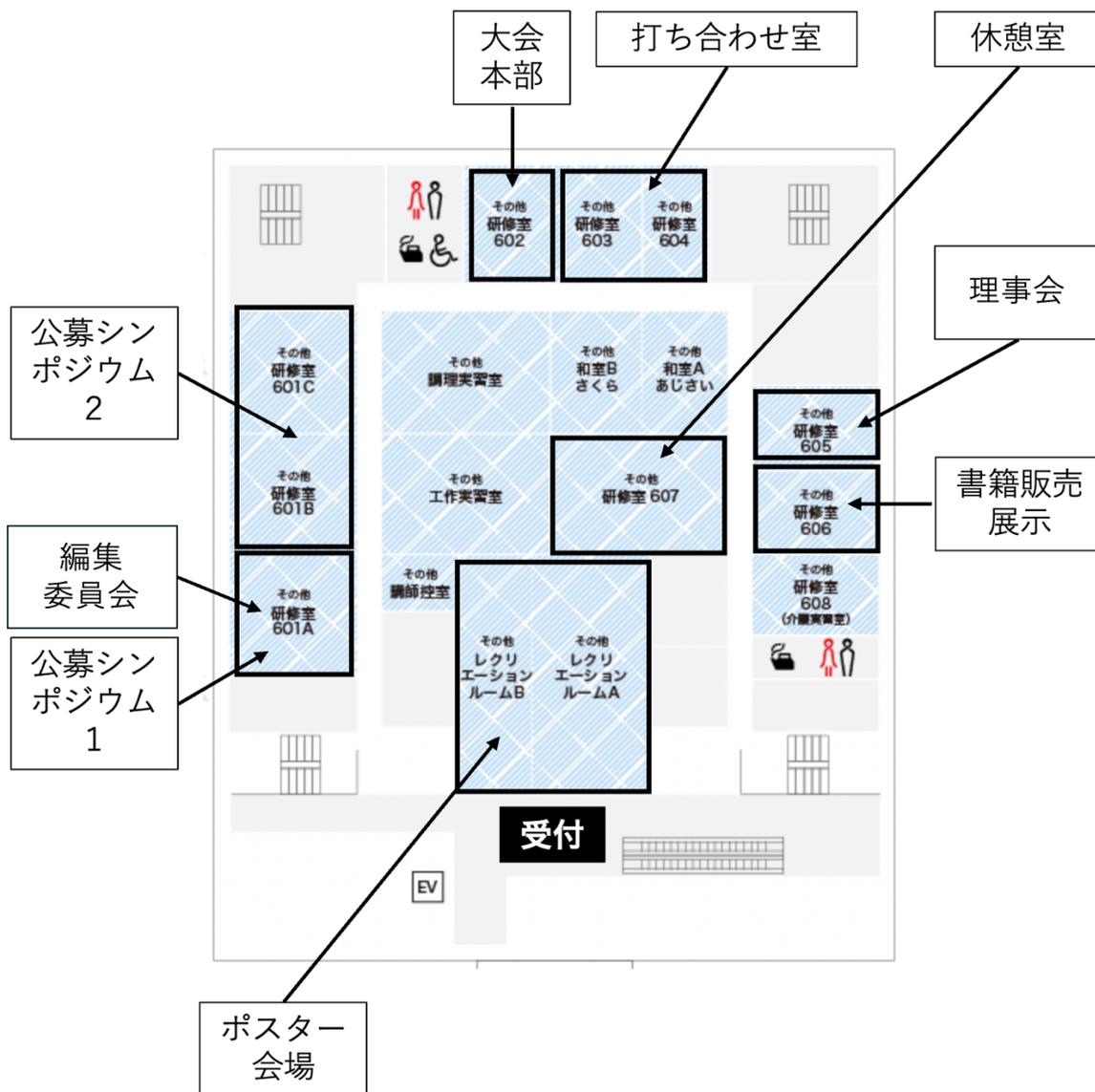
JR 福井駅より徒歩7分：<https://www.senkyobldg.or.jp/>



出典：福井駅周辺観光マップ(2025年版)：https://fuku-iro.jp/lsc/upfile/pamphlet/0000/0010/10_1_file.pdf

【大会会場フロアマップ - ①】

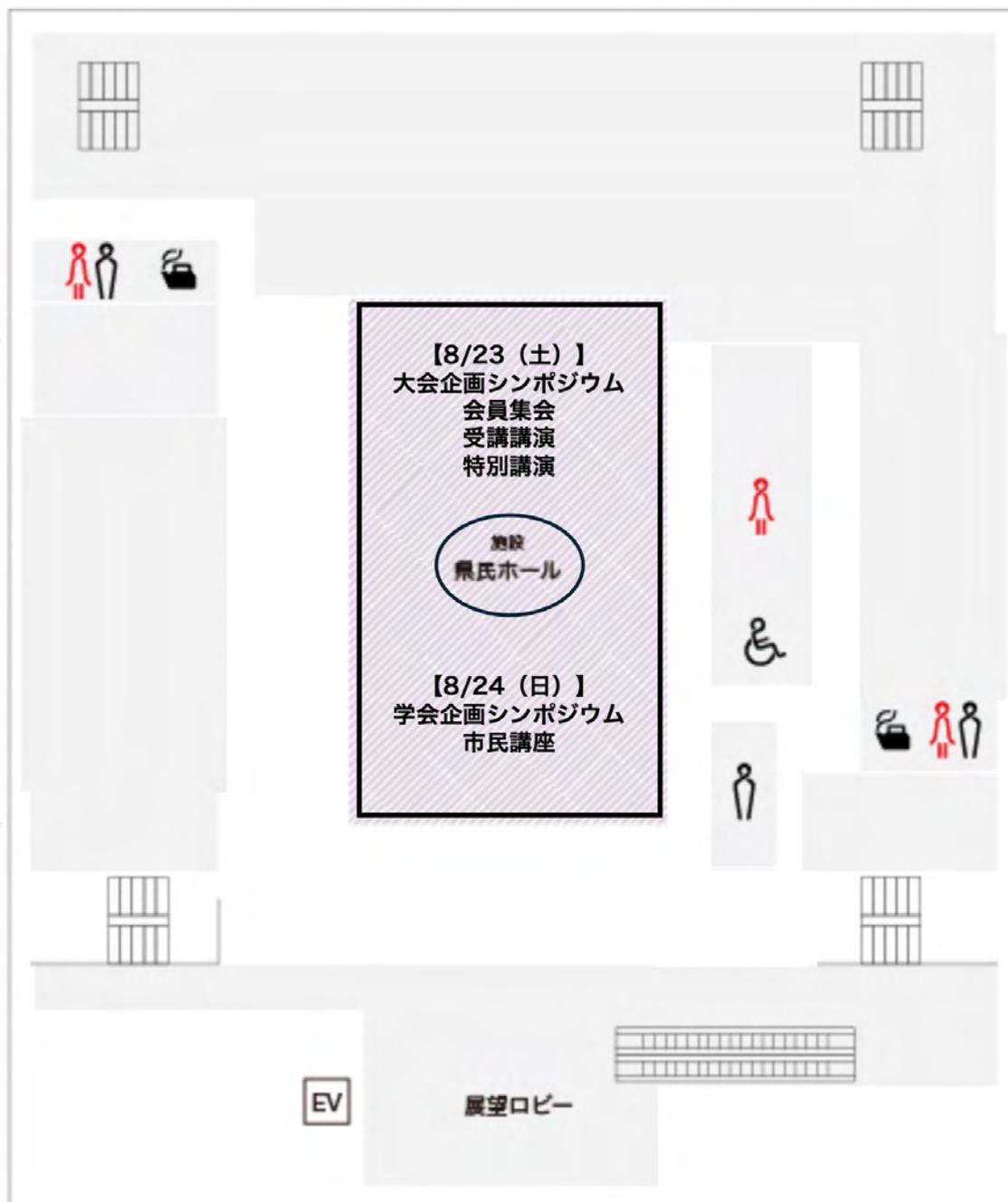
(6階：福井市地域交流プラザ)



<ご注意> 年次大会の会期中に、各企画実施の「部屋（ただし6階のみ）」が、諸事情により急遽変更する場合がございます。予めご了承くださいますようお願い申し上げます。

【大会会場フロアマップ - ②】

(8階：福井県・県民ホール)



ごあいさつ

2025年の第43回年次大会は、オンラインとリアル対面ハイブリッド方式にて開催させていただくことになりました。ハイブリッド方式による開催は、2022年度の第40回年次大会（小倉）に続いて2回目となります。また、リアル対面の開催地は「福井」となりました。北陸にて、日本行動分析学会の年次大会が開催されるのは学会創設以来「初」です。そして、年次大会の運営は、「臨床を語る会（福井）」のご助力のもと理事会が担います。このような運営方式も「初」の試みとなります。会期は8月19日から21日の3日間がオンライン開催となり、自主企画シンポジウム（全6枠）と学生口頭発表が実施されます。さらに、8月23日（土）、24日（日）の2日間がリアル対面にて、ポスター発表、学会・大会・公募企画シンポジウム、特別講演を予定しております。

リアル対面の会場となるAOSSAは、JR福井駅から徒歩1分に立地する公共・商業複合施設です。その施設のうち「福井市地域交流プラザ（6階）」および「福井県民ホール（8階）」を使って大会が実施されます。ご存知のように福井駅は、北陸新幹線延伸によって東京駅から直通となり、所要時間も2時間51分（「東京-新神戸」間とほぼ同じ所要時間）と非常にアクセスがしやすくなっております。また、懇親会は、福井県協会の協ビル10階ホールにて行われる予定です。この建物は、福井城址にもほど近く、学会会場からの移動の際には、その石垣や内堀を御覧いただけたらと思います。

今回の年次大会は、今後の持続可能な学会運営を見据え「コンパクトな運営」を指向しております。そのため、従来の年次大会と比べると簡素な開催となりますが、活発な議論、交流を行うことができる快適なアリーナとなることを目指しております。何卒、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人日本行動分析学会第43回年次大会準備委員会
委員長 山岸 直基

○大会参加者へのご案内

1. 会場

①オンライン

8月19日(火)～21日(金)は、Zoom(オンライン会議システム：<https://www.zoom.com/ja/products/virtual-meetings/>)を使用して、オンラインにて実施されます。当該URLへのアクセス方法については、大会ホームページ(<https://j-aba.jp/meeting/2025/>)をご覧ください。

②対面

8月23日(土)および24日(日)の対面による大会会場は、AOSSA(福井県福井市手寄1-4-1：<http://www.aossa.jp/>)の6階(福井市地域交流プラザ)および8階(福井県民ホール)です。会場へのアクセス方法については、この冊子または大会ホームページ(<https://j-aba.jp/meeting/2025/>)をご覧ください。

2. 受付(対面)

受付は、8月23日(土)および24日(日)は9:00から、AOSSA6階エレベーター前フロアにて行います。参加登録をされた方は、お名前とご所属を印刷した参加章(領収書つき)を各自お取りください。また、参加章は、大会会場内では、はっきりと見えるところにつけてください。

3. 懇親会

23日(土)の18:00から、福井県織協ビル10階ホール(<https://www.senkyobldg.or.jp/sharespace#hole>)にて懇親会が開催されます。なお、懇親会の当日参加申込はございませんので、ご注意ください。

4. クローク・託児

①大会(対面)会場内にはクロークがございません。以下のJR福井駅構内あるいは駅前公共サービスをご利用ください。

1) 福井市まちなか案内所(ウェルカムセンター)：https://fuku-iro.jp/spot/detail_10362.html

2) JR福井駅コインロッカー：<https://coinlocker.click/fukui-station.php>

②託児サービスについては、福井駅西口「ハピリン」2階にある「福井市子ども一時預かり所『の～び・のび』」(<https://www.city.fukui.lg.jp/fukusi/kosodate/sien/nobinobi.html>)を利用可能です(事前申込が必要となります)。

5. 休憩スペース

8月23日(土)および24日(日)の2日間、AOSSA6階の研修室607に休憩スペースを設けます。なお、同スペースは論文交換スペースも兼ねております。

6. 書籍の展示・販売

書籍の展示と販売は、AOSSA6階の研修室606にて行います。

7. お呼び出し・携帯電話のご使用

原則として会場内でのお呼び出しはいたしません。また、会場内ではスマートフォン・携帯電話などの電源をお切りいただくかマナーモードに設定してください。

8. 会場内の無線 LAN について

会場内では、無線 LAN 回線がご利用いただけます。詳細については、大会ホームページ(<https://j-aba.jp/meeting/2025/>)をご覧ください。

9. お食事について

AOSSA 1～3 階のモールおよび JR 福井駅周辺の飲食店・コンビニエンスストアをご利用ください。

10. コピー・ATM

JR 福井駅構内および周辺の ATM やコンビニエンスストアをご利用ください。

11. 駐車場

AOSSA には、有料の地下駐車場 (<http://www.aossa.jp/access/>) がございます (7:30-23:00 ; 169 台収容)。車いすのご利用など、必要な場合には準備委員会まで予めお申し出ください。

12. 連絡先

大会本部(AOSSA6 階の研修室 602 または jaba-meeting@j-aba.jp)にご連絡ください。

13. その他

AOSSA 館内および福井駅周辺エリアは禁煙です。また、大会会場内 (AOSSA6 階および 8 階) での飲酒はご遠慮ください。

○シンポジウム関係者へのご案内

1. 打ち合わせ室

シンポジウムの打ち合わせ室は AOSSA6 階の研修室 603・604 となっております。

2. パソコン、スクリーンなど

シンポジウム会場では、プロジェクター（HDMI および VGA 入力に対応）をご利用いただけます。なお、使用するパソコンは企画者および登壇者ご自身でご準備ください。その他の機材については準備委員会にお問い合わせください。

3. 配布資料

配布資料がある場合は、企画者ご自身でご準備ください。

○ポスター発表者へのご案内

1. 会場・時間

8月23日(土)は14:00~16:00の時間帯に、24日(日)は13:00~15:00の時間帯に、AOSSA6階のレクリエーションルームにてポスターセッションを行います。発表者の在籍責任時間は、発表番号が奇数の方は前半の1時間、偶数の方は後半の1時間となります。セッション終了後は各自でポスターの撤去をお願いします。残っているポスターについては、準備委員会で処分いたします。

2. 受付

発表会場デスクにてポスター番号を確認の上、所定のパネルにポスターを貼ってください。

3. ポスターの大きさ

掲示するポスターは、A0サイズ（縦118.9センチ×横84.1センチ）以下で作成してください。

4. 発表要件

ポスターセッション時間中にポスターを掲示し、所定の在籍時間中に在籍し、参加者と質疑応答することにより、正式発表となります。

5. 筆頭発表者欠席の場合の扱い

筆頭発表者が欠席した場合には、連名発表者の代行を認めます。発表論文集に記載されている筆頭発表者に欠席や交代などの変更があれば、会期前は準備委員会に、会期中は大会本部にご連絡ください。

6. その他

配布資料がある場合は、各自でご準備ください。

○論文交換テーブル

日本行動分析学会では、会員の研究交流を推進するために既発表の論文を著者が展示し、希望者に配布するスペース(論文交換テーブル)を年次大会で設けています。8月23日(土)と24日(日)に、休憩スペース(AOSSA 6階の研修室 607)に用意します。専門誌掲載、紀要論文など発表媒体は問いません。紹介したい自著論文の抜刷(またはコピー)をご持参ください。

原則として、見本の抜刷を1編につき1部準備し、所定の場所で参加者が自由に閲覧できるようにします。抜刷の希望者が所定の名簿に名前と住所またはメールアドレスを記入し、著者が後日送付する方法で運営します。多くの部数をご持参頂ける場合にはこの限りとせず、見本の1部以外は自由にお持ち帰りいただけます。

○日本行動分析学会の会員の方へのご案内

1. 理事会

理事会は8月22日(金)の17:00から、6階の研修室605にて行います。

2. 会員集会

会員集会を8月23日(土)の12:00から、8階県民ホールにて行います。

3. 学会賞授与式・受賞講演

学会賞授与式・受賞講演を8月23日(土)の13:00から8階県民ホールにて行います。

4. 編集委員会

『行動分析学研究』の編集委員会を8月24日(日)の11:30から6階の研修室601Aにて行います。

大会プログラム

特別講演

8月23日(土) 16:00-17:00 (AOSSA 8階: 福井県県民ホール)

災害とこころのケア～能登半島地震の実践から考える

Mental health care for disaster survivors: Reflections from the Noto peninsula earthquake experience

講師

池田 美樹 (桜美林大学)

Miki IKEDA (J. F. Oberlin University)

石川 健介 (金沢工業大学)

Kensuke ISHIKAWA (Kanazawa Institute of Technology)

司会

武藤 崇 (同志社大学)

Takashi MUTO (Doshisha University)

講演要旨

池田美樹先生：令和6年能登半島地震災害において、日本臨床心理士会災害支援PT・日本公認心理師協会災害支援合同委員会は、文部科学省緊急スクールカウンセラー派遣の調整や後方支援の体制作りを行いました。本講演では、発災後の時系列にそって、被災地外からの支援側の視点から見えた支援課題と支援の実際を紹介し、災害時のこころのケアについて、被災地における支援ニーズと支援調整における課題の観点から整理を行います。

石川健介先生：令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、石川県、特に能登地域に甚大な被害が起きました。石川県臨床心理士会は、全国の心理職の支援を受けながら、被災された県民への心理的支援活動を行ってきました。その中で、一定水準の援助サービスを提供する難しさや、受援体制を整え効率的に機能させることの困難さを実感しました。本講演では、これらの経験を共有し、今後の災害時のこころのケアに役立てるための課題と展望について考えます。

略歴など

池田美樹先生：早稲田大学大学院人間科学研究科博士課程単位取得満期退学。武蔵野赤十字病院精神科臨床心理係長を経て、桜美林大学大学院臨床心理学専攻リベラルアーツ学群・大学院心理学研究科准教授。災害支援者支援の研究、災害支援活動多数。東日本大震災では「日赤心のケア班」として、熊本地震では災害派遣精神医療チーム(DPAT)として現地で活動。能登半島地震災害では、文部科学省緊急派遣スクールカウンセラー派遣調整に従事。共著に『こころに寄り添う災害支援』(金剛出版)、『災害看護 心得ておきたい基本的な知識』(南山堂)など。

石川健介先生：金沢大学大学院社会環境科学研究科博士課程修了。富山医科薬科大学(現・富山大学医学部)精神神経医学教室心理士を経て、金沢工業大学心理科学研究科教授。能登半島地震災害では、石川県臨床心理会災害本部教育領域担当。能登半島地震災害では、文部科学省緊急派遣スクールカウンセラー派遣調整に従事。分担執筆に『行動分析学事典』(金剛出版)、『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』(金剛出版)など。

トラウマインフォームド・ケアは行動分析学に何をもたらす のか?

What contributions does trauma-informed care make to the field of behavior analysis?

企画 日本行動分析学会第43回年次大会準備委員会

司会 嶋 大樹 (追手門学院大学)
Taiki SHIMA (Otemon Gakuin University)

話題提供 野坂祐子 (大阪大学)
Sachiko NOSAKA (University of Osaka)
武藤 崇 (同志社大学)
Takashi MUTO (Doshisha University)
中村有吾 (同志社大学)
Yugo NAKAMURA (Doshisha University)

指定討論 澤 幸祐 (専修大学)
Kosuke SAWA (Senshu University)
井上雅彦 (鳥取大学)
Masahiko INOUE (Tottori University)

なぜ、いま「橋渡し研究」なのか(2)

Why is translational research so important in behavior analysis: Part II

- 企画** 日本行動分析学会理事会 (企画委員会)
- 司会** 内田佳那 (兵庫教育大学連合大学院)
Kana UCHIDA (Hyogo University of Teacher Education)
- 話題提供** 二瓶正登 (創価大学)
Masato NIHEI (Soka University)
佐伯大輔 (大阪公立大学)
Daisuke SAEKI (Osaka Metropolitan University)
藤巻 峻 (常磐大学)
Shun FUJIMAKI (Tokiwa University)
- 指定討論** 丹治敬之 (筑波大学)
Takayuki TANJI (University of Tsukuba)

公募企画シンポジウム 1

8月24日(日) 15:00~17:00
(AOSSA 6階・福井市地域交流プラザ 601A)

マクロとミクロの相互作用を紐解くー心理・精神医療・行動分析学をつなぐ多領域協働の可能性

Unraveling interrelations of contingencies across micro and macro levels:
Toward an integrative Collaboration in psychology, psychiatry, and behavior analysis

企画・司会

久留宮由貴江 (シカゴスクール)
Yukie KURUMIYA (The Chicago School)

話題提供

久留宮由貴江 (シカゴスクール)
Yukie KURUMIYA (The Chicago School)
嶋 大樹 (追手門学院大学)
Taiki SHIMA (Otemon Gakuin University)
岡本章宏 (嶺南こころの病院)
Akihiro OKAMOTO (Reinan Kokorono Hospital)

指定討論

山岸直基 (流通経済大学)
Naoki YAMAGISHI (Ryutsu Keizai University)

公募企画シンポジウム2

8月24日(日) 15:00~17:00
(AOSSA 6階・福井市地域交流プラザ 601BC)

“行動”と“選択”から動物福祉を考える

Thinking about animal welfare through "behavior" and "choices"

- 企画 高山仁志 (立命館大学)
Hitoshi TAKAYAMA (Ritsumeikan University)
- 司会 中鹿直樹 (立命館大学)
Naoki NAKASHIKA (Ritsumeikan University)
- 話題提供 高山仁志 (立命館大学)
Hitoshi TAKAYAMA (Ritsumeikan University)
古野公紀 (宇部フロンティア大学)
Masanori KONO (Ube Frontier University)
井出貴彦 (地方独立行政法人天王寺動物園)
Takahiko IDE (Osaka Tennoji Zoo)
- 指定討論 中島定彦 (関西学院大学)
Sadahiko NAKAJIMA (Kwansei Gakuin University)

チャレンジング行動への新たな視点：スケジュール誘導性行動 の理論と実践

A new perspective on challenging behavior: The theory and practice of schedule-induced behavior

- 企画** 今本 繁 (合同会社 ABC 研究所)
Shigeru IMAMOTO (LLC ABC Lab)
- 司会** 渡部匡隆 (横浜国立大学)
Masataka WATANABE (Yokohama National University)
- 話題提供** 今本 繁 (合同会社 ABC 研究所)
Shigeru IMAMOTO (LLC ABC Lab)
望月 要 (帝京大学)
Kaname Mochizuki (Teikyo University)
- 指定討論** 島宗 理 (法政大学)
Satoru SHIMAMUNE (Hosei University)

応用行動分析学の研究成果を国際学術誌に掲載する方法

Strategies for publishing research findings of applied behavior analysis in international academic journals

- 企画** 山本淳一 (東京都立大学)
Jun-ichi YAMAMOTO (Tokyo Metropolitan University)
- 司会** 山本淳一 (東京都立大学)
Jun-ichi YAMAMOTO (Tokyo Metropolitan University)
- 話題提供** 鈴木 誠 (東京家政大学)
Makoto SUZUKI (Tokyo Kasei University)
大森幹真 (早稲田大学)
Mikimasa OMORI (Waseda University)
石塚祐香 (筑波大学)
Yuka ISHIZUKA (University of Tsukuba)
- 指定討論** 山本淳一 (東京都立大学)
Jun-ichi YAMAMOTO (Tokyo Metropolitan University)

応用行動分析学(ABA)の実践倫理の未来像：協働・制度・ 人材育成で拓く 2030年代

Future vision of practical ethics in applied behavior analysis: Opening up the
2030s through collaboration, systems, and human resource development

- 企画 熊 仁美 (NPO法人ADDS)
Hitomi KUMA (NPO ADDS)
- 司会 竹内 弓乃(NPO法人ADDS)
Yuno TAKEUCHI (NPO ADDS)
- 話題提供 熊 仁美 (NPO法人ADDS)
Hitomi KUMA (NPO ADDS)
竹内 弓乃(NPO法人ADDS)
Yuno TAKEUCHI (NPO ADDS)
藤坂 龍司(NPO法人つみきの会)
Ryuji FUJISAKA (NPO Tsumiki no Kai)
竹島 浩司(株式会社エルチェ)
Koji TAKESHIMA (Elche Co., Ltd.)
- 指定討論 井上 雅彦(鳥取大学)
Masahiko INOUE (Tottori University)
杉山 尚子(山脇美術服飾学院)
Naoko SUGIYAMA (Yamawaki Design College)

行動分析学を社会に広めるために (3) : 誰が・何のために・
誰のどんな行動を? から考える

Behavior analysis and society (3): Think about who, why, and what actions?

企画

三田地 真実 (教育ファシリテーション研究所)
Mami MITACHI
(Educational Facilitation Investigation Laboratory)
松山 康成 (東京学芸大学)
Yasunari MATSUYAMA (Tokyo Gakugei University)

司会

三田地 真実 (教育ファシリテーション研究所)
Mami MITACHI
(Educational Facilitation Investigation Laboratory)
松山 康成 (東京学芸大学)
Yasunari MATSUYAMA (Tokyo Gakugei University)

話題提供

佐藤 智彦 (東京慈恵会医科大学)
Tomohiko SATO (Jikei University School of Medicine)
三田地 真実 (教育ファシリテーション研究所)
Mami MITACHI
(Educational Facilitation Investigation Laboratory)
松山 康成 (東京学芸大学)
Yasunari MATSUYAMA (Tokyo Gakugei University)

指定討論

松田壮一郎 (筑波大学)
Soichiro MATSUDA (University of Tsukuba)

第5回若手研究者口頭発表セッション

5th oral presentation session by young behavior analysts

- 企画** 日本行動分析学会若手研究者優秀発表賞選考委員会
 日本行動分析学会若手会
- 発表者①** 杉田 創（早稲田大学）
- 発表者②** HU SIMENG（筑波大学）

ポスター発表 1

8月23日(土) 14:00~16:00 (AOSSA6階レク室)
在席責任時間 奇数:前半1時間, 偶数:後半1時間

- | | | |
|-------|---|--|
| P1-01 | 日本語版 Quick Delay Questionnaire の開発に向けた予備的検討 | ○ 其樂 格日
池上 将永
中村 敏 |
| P1-02 | 待つだけの場面と待ち時間に労力が要求される場面間のハトの選択行動に及ぼす労力の効果 | ○ 久保 尚也 |
| P1-03 | 自閉スペクトラム症児に対する短縮版情動調整プログラムの効果 | ○ 亀井 幸穂
高浜 浩二 |
| P1-04 | 価値割引と幸福経済学—遅延・社会割引と主観的幸福感の関係 | ○ 井垣 竹晴 |
| P1-05 | 場面緘黙症の園児に対するしりとりを用いた段階的エクスポージャーの効果の検討 | ○ 井森 萌子
仁藤 二郎 |
| P1-06 | 動物園におけるボタン誘導システムは安全行動を大幅に改善する—マニュアル提示と比較した放飼場面の効果 | ○ 伴 和幸
野上 大史
今村 和孝
越智 亮太
宗平 将幸
村井 彰宏
金谷 晴一 |
| P1-07 | Additive Component Design を用いた ASD 児への段階的行動介入の検討 | ○ 門脇 陽一 |
| P1-08 | ヒトの“労働倫理”選好研究における固定労働時間の効果—時間つぶしに働く仮説について | ○ 八賀 洋介
キョウ タクリン |
| P1-09 | 小学2年生男児を対象とした打楽器演奏の学習支援—太鼓音、リズム譜、リズム名の見本合わせ訓練がタッピングに及ぼす影響 | ○ 前原 瑞木
島宗 理 |
| P1-10 | 家庭内で咬傷行動を示す犬とその家族に対する機能的アセスメントと介入 | ○ 前田 愛 |
| P1-11 | 第14番染色体父親性ダイソミー症候群(鏡一揃方症候群)児の音声発話に対する随伴模倣の効果 | ○ 南 遥花
松田 壮一郎 |
| P1-12 | 変動比率及び変動時隔スケジュールがハトのつつき行動における消去バーストに及ぼす効果 | ○ 古野 公紀 |
| P1-13 | リズム脳刺激による両手の運動協調性の変化 | ○ 在原 菜々花
鈴木 誠
磯 直樹
松本 卓也
山本 淳一 |

- P1-14 特別養護老人ホーム要介護高齢者の誤嚥予防のための咽頭残留除去ケ
プログラムの効果の検証 ○ 天木 伸子
鎌倉 やよい
百瀬 由美子
三浦 由佳
西岡 裕子
- P1-15 障害児通所支援を利用する神経発達症をもつ子どもに対する行動の拡
大を援助する働きかけ ○ 太田 光美
中鹿 直樹
- P1-16 知的障害児における刺激フィードバックによる連続量の指導—数直線
および分数に対する刺激選択反応の正確性向上 ○ 奥脇 夢佳
河村 優詞
- P1-17 内服薬の混合をきっかけに生じた犬の拒食行動に対する介入 ○ 室井 尚子
- P1-18 生成 AI は行動の原理に関する高度な知識を有する— GPT-4o による
KBPAAC と TK-ABA の解答結果から ○ 宮崎 光明
太田 久貴
多田 陽南
- P1-19 Contingency Addition 手続きを用いた視覚的な学習方法—濁音を表
す点字の学習 ○ 小原 健一郎
大島 研介
- P1-20 随伴性操作による公的／私的事象としての確信度の変動と脳活動から
の解釈 ○ 小川 剛史
黒田 敏数
岸 朋彦
堤 聖月
川鍋 一晃
- P1-21 児童発達支援事業所におけるビデオ・フィードバックを用いた遠隔型
スタッフトレーニングの効果 ○ 小林 未奈
杉原 聡子
- P1-22 ヒトを対象とする反応形成研究の実験方法論の探索的検討 ○ 山下 智也
折原 友尊
竹内 康二
丹野 貴行
- P1-23 小学 1 年生による自発的な暗唱練習を増やすクラスワイド支援—順
序性イントラバーバルの行動内制的強化による挑戦行動の創発 ○ 島岡 次郎
島宗 理
- P1-24 ヒトにおける変動性強化遅延の選好—固定・混合・変動遅延および強
化量が選択行動に与える影響 ○ 崔 駿宇
望月 要
- P1-25 こだわり行動と運動機能障害を併せ持つ ASD 者への時間管理支援(2)
—精神科臨床における行動コンサルテーションの事例検討 ○ 川上 英輔
竹澤 律子
伊豆 栄美
- P1-26 心理学を専攻する大学生の心理英単語の学習における 3C 学習法の効
果の検討 ○ 平田 さくら
田中 杏奈
米山 直樹

- P1-27 自閉スペクトラム症児の「関係の概念」学習一順番の概念を対象として ○ 成田 咲也香
野呂 文行
- P1-28 認知課題前の運動は課題従事行動に影響を及ぼすのか—3歳児を対象として ○ 木村 拓磨
貞松 成
- P1-29 小学生の不登校2事例に対する保護者への行動コンサルテーションを通じた再登校支援 ○ 本田 暉
林 直美
市坪 徳郎
長谷川 美保
仁藤 二郎
- P1-30 重度知的障害を伴う自閉スペクトラム症の子どもの PECS を用いた援助要求行動の促進に関する一事例検討 ○ 松下 浩之
雨宮 千尋
今城 和紀
- P1-31 大学生・大学院生を対象にした等価性に基づく教授法による仮説検定法の教授 ○ 柞木 太地
山口 一大
松田 壮一郎
- P1-32 大学生の子育て観についての行動分析的観点からの考察 ○ 桑原 一尋
免田 賢
- P1-33 社交不安傾向の高い大学生に対する就職面接場面における行動スキル訓練の効果—システムティック・レプリケーション ○ 櫻井 優大
松田 壮一郎
- P1-34 ADHD モデル動物 SHR の行動と腸の炎症に対する有機ゲルマニウム化合物アサイゲルマニウム摂取の効果 ○ 正木 光可
安積 遵哉
武田 知也
麻生 久
中村 宜司
- P1-35 保育士養成課程の専門学生に対するクラス規模ポジティブ行動支援の実践—行動問題及びレポート記入量に及ぼす影響 ○ 水野 良子
河村 優詞
- P1-36 5 試行短縮版による遅延割引率の測定—大学生および ADHD 児を対象とした検討 ○ 池上 将永
黒田 真実
中村 敏
- P1-37 「幸せを感じると報告された活動」と「実際に幸せを感じた活動」のズレ—ESM データに基づく検討 ○ 熊崎 菜々子
松田 壮一郎
- P1-38 刺激機能の変換によって強化子の機能を獲得した未知・未経験の刺激の強化真価—より良い・より悪いの比較関係の検討 ○ 中村 敏

ポスター発表2

8月24日(日) 13:00~15:00 (AOSSA6階レク室)
在席責任時間 奇数:前半1時間, 偶数:後半1時間

- | | | |
|-------|---|---------------------------------------|
| P2-01 | 行動分析学におけるオンライン実験の可能性—報酬の損失を考慮したセルフ・コントロール選択パラダイムを用いた検討 | ○ 片山 綾
浅井 智久 |
| P2-02 | 言語賞賛及びグラフフィードバックによる中学生の授業中の話を聞く行動の促進 | ○ 生方 直 |
| P2-03 | 自由選択条件と制限選択条件における高労力大強化子選好度の比較 | ○ 田島 裕之 |
| P2-04 | P-F スタディの型と性格特性の関連性—Big Five 尺度を用いて | ○ 畠山 隼輔
加藤 千恵子
土田 賢省
後藤 芙未子 |
| P2-05 | 知的障害特別支援学校における個別指導のための体制作り | ○ 白樫 麻紀
野田 航 |
| P2-06 | ハトを対象とした継時見本合わせ手続きを用いた対称性実験での行動パターンの分析 | ○ 石塚 雅貴
丹野 貴行 |
| P2-07 | 脳刺激が「イメージトレーニング」における運動調整機能を促進させる—神経行動分析学による「私的事象」の実験的検討 | ○ 磯 直樹
鈴木 誠
在原 菜々花
山本 淳一 |
| P2-08 | 飲み物をおいしくするのは「手間」か「時間」か?—労力が印象評価と摂取量に与える影響 | ○ 福田 実奈
青山 謙二郎 |
| P2-09 | 子どもの遅延割引と社会割引—調整量手続きを用いた測定 | ○ 空間 美智子
伊藤 正人
井垣 竹晴
和田 彩紀子 |
| P2-10 | ヒトの高コスト高報酬選択行動—調整法を用いた反応要求数と強化量の無差別点測定の試み | ○ 章 博約
鄧 麟峰
崔 駿宇
周 忻
望月 要 |
| P2-11 | 保育士に対するコンサルテーションの効果—ペアレント・トレーニングにおけるコアエレメントを活用して | ○ 竹中 正彦 |
| P2-12 | 会食場面を回避していた成人男性へのセルフモニタリングの効果 | ○ 竹澤 律子
川上 英輔
深井 光浩 |

P2-13	小学1・2年生を対象とした漢字の読み学習支援— デジタルプリント教材におけるふりがな付与の効果	○ 笹田 夕美子 島宗 理
P2-14	神経発達症児に対する見本合わせ課題を用いたアルファベット文字指導—見本刺激と比較刺激に対する反応分化手続きの効果	○ 若林 風佳 高浜 浩二
P2-15	行動時系列データの図表現 —Poincaré プロット・拡張リターンマップ	○ 藤 健一 吉岡 昌子 佐藤 敬子
P2-16	オンライン会話における場面緘黙経験者の発話特徴—画面表示の有無による影響	○ 藤間 友里亜 松田 壮一郎
P2-17	他者の利益が間違っただルールのルール性制御に与える影響	○ 岸本 祥歩 中鹿 直樹
P2-18	保育士ならびに教師の支援技術向上を目的とした応用行動分析学に基づく研修に関する研究動向	○ 越智 柚希乃 岡本 邦広
P2-19	自閉スペクトラム症生徒に対する音素文字を用いた構成反応見本合わせによる英語学習	○ 野地 柊汰 若林 風佳 高浜 浩二
P2-20	知的障害を伴う自閉スペクトラム症児の要求場面における音声生成装置の利用と発話の関連	○ 金田 萌花 佐々木 銀河
P2-21	ディープフェイク技術を用いた表情模倣刺激の作成に関する予備的検討—行動分析学的支援への応用可能性	○ 関根 悟 井上 雅彦
P2-22	大学生の課題提出行動と遅延割引および確率割引との関係	○ 青山謙二郎
P2-23	体験回避と自尊感情変動性がネガティブな反すうを介して妄想的観念に与える影響	○ 顧 倚茹 加藤 千恵子 石井 隆之 三好 香次
P2-24	望む行動に対する強化が大学生の行動的 QOL と SNS 利用時間に及ぼす効果	○ 高坂 めぐみ 中鹿 直樹
P2-25	こだわり行動と運動機能障害を併せ持つ ASD 者への時間管理支援 (1) —就労支援場面において行動契約を用いた事例の検討	○ 嶋山 東志子 大津 朋子 川上 英輔 竹澤 律子 久保 尚美 伊豆 栄美
P2-26	生成 AI を活用した行動支援計画作成支援システムの試作と評価に関する予備調査	○ 村浦 新之助 黒田 一之 井澤 信三

- P2-27 反応とそれを受け取る側の不一致による分化強化の不成立ーニューロ
フィードバックのオペラント的シミュレーション ○ 黒田 敏数
小川 剛史
岸 朋彦
堤 聖月
川鍋 一晃
- P2-28 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症児における疑問詞応答スキルの
獲得と般化ー刺激性制御の分析 ○ 松葉 琴音
高浜 浩二
- P2-29 小学4年国語の授業における物語朗読の学習支援ー情緒表現の行動的
定義とモデリング・自己評価と他者評価・フィードバックの効果 ○ 中川 恵乃久
島宗 理
- P2-30 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症児に対する構成反応見本合わ
せ課題を用いた文法指導 ○ 入江 萌生
吉成 希
高浜 浩二
- P2-31 小学3年生を対象としたローマ字表記の学習支援ー拗音・撥音・促
音を含む単語変換の流暢性訓練が短文変換に及ぼす効果 ○ 内田 涼
島宗 理
- P2-32 小学校における学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）の実施が児
童の出席率に及ぼす影響 ○ 松山 康成
- P2-33 心因性頻尿により不登校になった学生に対する理学療法と行動修正を
組み合わせた統合的介入 ○ 櫻井 好美
山本 淳一
- P2-34 「マンガ」を用いた随伴性ダイアグラムは可能か？ー言語行動に特化
した分析ツールの開発 ○ 武藤 崇
- P2-35 ハトを対象とした信号強化効果のメカニズムの検討 ○ 石川 直生
丹野 貴行
- P2-36 注視の促進を目的に作成したカードゲームの実施が児童の会話中の顔
への注視に与える影響 ○ 竹内 康祐
竹内 康二
- P2-37 知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症児におけるマトリックス訓練
を用いた色と形による弁別の形成 ○ 阿久津 美月
入江 萌生
高浜 浩二
- P2-38 自閉スペクトラム症児に対する刺激ベアリング手続きを用いたカタカ
ナ読み指導の効果の検討 ○ 福田 琉華
米山 直樹
- P2-39 AI生成アニメキャラクターの人物同定ー見本合わせ訓練で音声特徴
を含む刺激クラスを形成できるか ○ 島宗 理

一般社団法人行動分析学会第43回年次大会

協賛企業ご芳名 (五十音順, 敬称略)

株式会社 学苑社

株式会社 北大路書房

株式会社 クロス・マーケティング

株式会社 金剛出版

有限会社 二瓶社

**気になる子どもが変わる
先生のための
学校でできる保護者支援**
応用行動分析学によるアプローチ

岡村章司【著】 ● A5判/定価 2530円(税込)

応用高度分析学をベースに、学校でできる保護者支援について基本的な姿勢から具体的な連携方法までを具体的に解説する。



新刊

**困った行動から考える
ペアレント・サポート・プログラム(PSP)**

平澤紀子【著】 ● B5判/定価 1870円(税込)

叱って止めさせるから、よさを伸ばす応援へ！子どもの行動の意味を理解することで、子どものよさや頑張りに気づいていく。



新刊

**発達が気になる子どもへの
日常生活発達行動支援法
(NDBIs)**

山本淳一【監修】石塚祐香【著】
● B5判/定価 2860円(税込)

子どものコミュニケーションを「見える化」し、できる行動を増やす日常生活発達行動支援法(NDBIs)の入門書。

**先生ができる
気になる子どもとの関わり方**

角南なおみ【著】 ● B5判/定価 2420円(税込)



新刊

**集団適応に困難をかかえる
子どもの理解と対応**

相澤雅文【著】 ● A5判/定価 2420円(税込)



新刊

**笑える魅力があふれてる！
ADHD さくちゃんと
ママの凸凹な毎日**

日戸由川【監修】のみ山のみ【著】大山美香【解説】
● 四六判/定価 1760円(税込)

**発達障害のある子の
パーソナルデザイン**

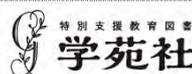
「ほくにびったり」のノウハウとコツを見つけて

添島康夫・霜田浩信【編著】
● B5判/定価 2420円(税込)

いじめ防止の3R

すべての子どもへのいじめの予防と対処

ロリ・アーンスパージャー【著】
奥田健次【監訳】冬崎友理【訳】
● A5判/定価 3300円(税込)



Tel 03-3263-3817
Fax 03-3263-2410

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2
E-mail: info@gakuensha.co.jp https://www.gakuensha.co.jp/

**応用行動分析学(ABA)
テキストブック**

基礎知識から保育・学校・福祉場面への応用まで

野呂文行【監修】
永富大輔・朝岡寛史【編著】
● B5判/定価 3960円(税込)

多くの演習問題から学ぶことができ、授業や研修会のテキストとしても最適な応用行動分析学を学ぶための入門書。



**ABA 早期療育プログラム
DTTの理解と実践**

一般社団法人東京ABA発達支援協会【監修】
橋川佳奈【編著】
● B5判/定価 2640円(税込)

課題をスモールステップで取り組む DTT(ディスクリート・トリアル・トレーニング)を実践するための1冊。



障害福祉
入門

**動画で学ぶ
障害福祉入門**

サービスの質を向上させるための理論と実践

大石幸二【編著】野崎陽弘【著】
● A5判/定価 1980円(税込)



VB指導法

VB 指導法

発達障がいのある子のための
言語・コミュニケーション指導

メアリー・リンチ・バーベラ【著】杉山尚子【監訳】上村裕章【訳】
● A5判/定価 3740円(税込)



ディスレクシア・
ディスグラフィア
の理解と支援

**ディスレクシア・
ディスグラフィアの理解と支援**

読み書き困難のある子どもへの対応

川崎聡大【著】 ● B5判/定価 2530円(税込)

**言語・コミュニケーション
発達の理解と支援 改訂新版**

LC-Rを活用したアプローチ

大伴潔・橋本創一・溝江唯【編著】
● B5判/定価 3520円(税込)



場面緘黙
支援入門

幼稚園や学校で話せない子どものための

場面緘黙支援入門

園山繁樹【著】 ● 四六判/定価 1760円(税込)

**保育者ができる気になる行動を示す
幼児への支援**

応用行動分析学に基づく実践ガイドブック

野呂文行・高橋雅江【監修】永富大輔・原口英之【編著】
● B5判/定価 2090円(税込)



新刊

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

https://www.kitaohji.com(価格税込)

ドムヤンの学習と行動の原理(原著第7版)

M. ドムヤン著 漆原宏次, 坂野雄二監訳 B5上製・424頁・定価7920円 学習心理学の泰斗・ドムヤンによる米国で評判のテキスト, 待望の邦訳。行動の誘発, 強化, 制御, 消去, 変容に関わる学習の原理, およびその広範な活用について, 神経科学の裏づけを加えつつ新たな研究知見を紹介。

心理学・教育学研究のための効果量入門

—Rを用いた実践的理解— 中村大輝著 A5・232頁・定価3520円 ジャーナルでの研究報告に求められる効果量とその信頼区間について, 理論から実践まで体系的に学べるテキスト。効果量の定義, 計算方法, 解釈や統合の方法, 効果量に基づくサンプルサイズ設計の方法を, Rコードと論文での実際の記載例を交えて紹介。

ACT実践家のための「コンパッションの科学」

—心理的柔軟性を育むツール— D. ターシュほか著 酒井美枝, 嶋 大樹, 武藤 崇監訳 伊藤義徳監修 A5・336頁・定価3960円 刺激に対するクライアントの感情・認知・行動的柔軟性を高めるACT。そこにコンパッションを取り入れた治療の新たな可能性を臨床例やワークシートと共に紹介。

生理心理学と精神生理学 第I巻 基礎

堀 忠雄, 尾崎久記監修 坂田省吾, 山田富美雄編集 B5・320頁・定価4180円 第I巻では生理心理学の歴史的な経緯も含め, 主に研究法の基礎的内容を扱う。脳とそれ以外の生体反応を区分し, その測定技術および解析の仕方について詳述する。基礎的知見の体系的理解を得るために国家資格試験の試験対策としても好適。II巻応用, III巻展開の全3巻。

啓エンサイクロペディア 心理学研究方法論

W. J. レイ著 岡田圭二編訳 B5上製・404頁・定価5500円 「行動と経験の科学」としての心理学の基盤となる研究方法を徹底的に詳しく記述した, 好評書の改訂版。原著第10版(2011年)を忠実に訳出するとともに, 日本の読者が更なる理解を深められるように「論文執筆見本」と「領域毎の研究手法の解説」を付す。

経験サンプリング法入門

—集中的縦断研究のデザインと分析を学ぶ— ナイアル・ボルジャー, ジャン=フィリップ・ロレンソ著 尾崎由佳訳 A5・264頁・定価3850円 調査対象者の行動・感情データをリアルタイムで短期間に繰り返し収集する, 経験サンプリング法や日誌法の手引書。研究デザインの選択, 得られたデータの扱い方と関連する統計学的知識, 理論のモデル化を解説。

心理学からみた食べる行動

—基礎から臨床までを科学する— 青山謙二郎・武藤崇編著 A5・264頁・定価2750円 なぜ食べるのか。どうして過食はおきるのか。重要な研究を厳選し, 食行動のコントロールにおける「心理学的メカニズム」を解説。また, 偏食や肥満, 糖尿病の問題, 摂食障害を取りあげ, 科学的な根拠に基づいた食行動の異常の理解と介入方法を紹介する。

新・動機づけ研究の最前線

上淵 寿, 大芦 治編著 A5・248頁・定価3520円 好評の既刊書から15年を経て, この間の膨大な知見の集積をベースに新版として登場。社会文化的なアプローチや発達の観点も織り込みつつ, 達成目標理論の細分化や自己決定理論の進展に伴う実証研究, さらに学習観の変遷に伴う動機づけとの関係など, 最新の研究成果を紹介する。

心理学って面白そう!
どんな仕事で活かされている?

シリーズ **心理学と仕事 (全20巻) 完結!** シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・148~232頁・定価2200~2530円

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |

Cross Marketing

学術調査ならクロス・マーケティング

研究論文でのリサーチ実績、年間1000件超。
倫理審査もお手伝いいたします。



クロス・マーケティングの展示ブースへ
お立ち寄りいただいた方限定

❖ ブースご来場特典 ❖

特典
1 無料配布

学術調査の基本とやり方がわかる
実践ガイド



特典
2 限定割引

学術調査 基本料金半額 もしくは
対象者リクルーティング **30% OFF**



特典
3 プレゼント

オリジナルノベルティ
※数に限りがございます。



※弊社ブースにて名刺交換をさせていただいたお客様限定となります。



詳細は **当日のクロス・マーケティング展示ブース** まで

お問合せはこちらから 株式会社クロス・マーケティング

☎ 0120-198-022 ✉ academic@cross-m.co.jp

学術調査
特設サイトへは
こちらから



<https://www.cross-m.co.jp/industries/academic-conference>

ストーリーで学ぶABA
「特別支援学級」「通級」担任の専門性UPのために



三田地真実 監修/河村優詞 著
特別支援学級や通級の担任に向けて、応用行動分析学(ABA)の枠組みに基づく指導法をストーリー仕立てですべて具体的に紹介する。

B5判 並製 256頁 定価3,520円

事例にまなぶ認知行動療法

子ども×学校の困りごとが解決に向かうマインドセット

西川公平 著



舞台は子ども×学校。スクールカウンセラー/開業セラピストとしてデータ分析とケース研究の両輪で悩みをときほぐすユニークな事例集。

A5判 並製 200頁 定価3,080円

JASPER 実践マニュアル

自閉スペクトラム症児のための早期支援モデル

C・カサリ, A・C・ガルスルート他 著
黒田美保, 辻井正次 監訳



遊びを通じて自閉スペクトラム症の子どもの社会性をはぐくむ—アセスメントから実践、トラブルシューティングまで!

B5判 並製 450頁 定価4,620円

新装版 ことばと行動

言語の基礎から臨床まで

一般社団法人 日本行動分析学会 編
浅野俊夫, 山本淳一 責任編集

行動分析学から言語を捉え、臨床に役立つ基礎・理論的研究から、ことばを育て、支援する具体的な技法までを豊富な事例とともに解説。

A5判 並製 400頁 定価4,620円



動機づけ面接を始める・続ける・広げる

原井宏明 編著



「動機づけ面接(MI)は、面接を技術にする」。MIを最前線で利用する執筆者が、MIをどう学び、臨床にどう役立てているかを紹介。

A5判 並製 288頁 定価3,960円

はじめてまなぶ自閉スペクトラム症

診断から実践へ

本田秀夫 著



“バイリンガル”な支援者になる!—“ASDの世界”と“ふつうの世界”をつなぐ、個性が生きる多様な社会へ。

四六判 並製 224頁 定価2,860円

Ψ 金剛出版

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16
Tel.03-3815-6661 Fax.03-3818-6848

<https://www.kongoshuppan.co.jp/>
*価格は税込表示(10%)です。

自閉症児と
絵カードで
コミュニケーション
PECSとAAC
アンディ・ボンディ/ロリ・フロスト 著
園山繁樹 竹内康二 門真一郎 訳



自閉症児と
絵カードで
コミュニケーション
PECSとAAC
第2版

A Picture's Worth
PECS and Other Visual Communication Strategies in Autism
Second Edition

アンディ・ボンディ/ロリ・フロスト 著
園山繁樹/竹内康二/門真一郎 訳

ISBN:978-4-86108-086-9
定価2,200円 A5判 176ページ

Challenging Behaviour
チャレンジング
行動



チャレンジング行動
強度行動障害を深く理解するために

Challenging Behavior

エリック・エマーソン/スチュワート・L・アインフェルド 著
園山繁樹/野口幸弘 監訳

自傷行動や攻撃行動、破壊的行動、多動、不適切な社会的行動など、こうした行動が生じるメカニズムを明らかにしつつ、望ましい行動を促す介入方法および介入プロセスについて解説する。いまだ重度知的障害のある人たちが強度行動障害を示す人たちが虐待の対象となる事例が報告される本邦において本書が果たす役割は大きい。
ISBN:978-4-86108-089-0
定価3,080円 A5判 264ページ

行動主義を理解する
行動、文化、そして進化



行動主義を理解する
行動、文化、そして進化 日本語版第2版

UNDERSTANDING BEHAVIORISM:
Behavior, Culture, and Evolution
Third Edition

ウィリアム・M・ボーム 著
森山哲美 訳

ヒトやヒト以外の動物がなぜどのように行動するのか。行動を理解するとはどういうことなのか。行動を科学することは可能なのか。行動にかかわる根本的な問題を改めて考える。
ISBN:978-4-86108-090-6
定価5,280円 A5判 456ページ

行動変容法入門
日本語版第2版



行動変容法入門
日本語版第2版

Behavior Modification Principles and Procedures
Sixth Edition

レイモンド・G・ミルテンバーガー 著
野呂文行/佐々木銀河/青木康彦/神山努 訳

応用行動分析学の学び初めに最適な1冊。学部生や院生、教育、福祉、リハビリテーションなどの現場で働く専門職の人たちに、長年にわたって教科書として利用されてきた『行動変容法入門』(2006.1)待望の改訂版。
ISBN:978-4-86108-091-3
定価5,940円 B5判 576ページ

二瓶社

TEL 03-4531-9766 FAX 03-6745-8066
e-mail info@niheisha.co.jp

●二瓶社の書籍は全国の書店でお求めいただけます。
出版企画も承っております。左記までお気軽にお問い合わせください。

一般社団法人行動分析学会第 43 回年次大会 準備委員会

委員長 山岸 直基 (理事長)
事務局長 武藤 崇 (理事：企画担当)
委員 岡村 章司 (理事：企画担当)
青山謙二郎
磯端 由貴
岡本 克己
片寄 早織
高木 朋希
中村 まゆみ
橋本 恵理子

大会事務委託 有限会社 リファレンス

一般社団法人 日本行動分析学会第 43 回年次大会プログラム (速報版)

発行者 日本行動分析学会第 43 回年次大会準備委員会
委員長 山岸 直基

〒610-0394

京都府京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学 心理学部

メールアドレス：jaba-meeting@j-aba.jp

ホームページ：http://www.j-aba.jp/meeting/2025/